

警城時報

行發日四
編輯兼發行 岡田 弘成
印刷所 警城時報社
發行所 警城時報社
一部金五銭 一月金五十銭
廣告料一行十四字計五十銭
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

悲觀狀態を傳へられる 平工業學校新設 寄附額に一抹の不安 委員最後の運動に上京

平工業學校新設は常磐三大炭礦外といふので大した期待も出なからず、寄附二十萬圓、日立鐵山關係といふ悲觀すべき事情になつた。寄附額等々八十萬圓の寄附金をたのんで、三日午前十時から委員橋本氏方に至り、橋本氏は委員が極力寄附募集に當つて努力を拂ふ事となり、青沼市長が三委員が寄附者の大部分が容易に長以下野崎、藤田、川崎、鈴木(以下略)を言明せず募集に支障を来し、委員が四日の上京した。たので「不足分は俺が出す」と、委員が四日の上京した。言ふ頼母しい快氣を示して、現在の處では三十五萬圓の寄附が更に訪問して二十萬圓と寄附最初の計画減少しても五十萬圓額を記帳させてしまつた。三井は必要で、當局では可能性あり氏としては馬鹿な連中だと思つて確信してゐるやうである。即ち「さういふが、三井の寄附非氏に關する話の序に「二十萬額を決定して進んで當つた處、常回と書いては貰つたが「二十萬額三大炭礦では七萬圓程度、日と微笑を洩らした處に妙味が存曹關係で三萬圓位、日立では懸してゐる。」

炭焼の資本だと 三千圓を詐取 料亭買収交渉中檢舉 續々あがる時局犯罪

平署では市内七丁目熱心湯に滯留多賀郡那賀村下相田炭礦業忍在してゐる東京市深川區扇橋三山一郎(四八)の兩名を悪アロ！丁目石炭商榷原福(四二)炭城カとして檢舉し取調べ中であ

榮ある金賞決る 第一校成績品展

平市第一校では二日から四日まで東校舎に於て児童成績品展覧會を開催したが、金賞を授けられた者左の如くである。

△警方
一年 吉田正一、馬目千秋、福永徹、市原清、黒澤八郎、石井孝雄、根本一男、佐藤弘信
二年 志賀昭美、濱田榮、福島利雄、高橋俊一、岡部英雄、小室勝彦
三年 天野進平、田野入重徳、有賀高明、瓜田健、木村孝一、川富保、宮崎信夫、増田則夫、五年 佐藤芳明、岡部武久、

若葉會展 入賞者決る

警城高等女學校校友會若葉會主催の若葉會展は二日、三日の兩日市公會堂日本間に開催、出品百五十点、中西教諭審査の結果左の如く入賞者決定した。

△日本畫の部
若葉會員 關内滿壽子(四年)
櫻庭美代子(四年) 大和田キヨ(三年) 三井敬子(三年)
正木田鶴子(二年)
研究會員 藤田久子(四年)
富川芳子(政政科)
一般賞 櫻庭淳子外十名
△洋畫の部
若葉會員 宮澤チカ子(三年)
山崎榮子(二年)
研究會員 櫻庭美代子(四年)
一般賞 酒井良子外七名

空襲のロンドンから 逃れ歸朝した海野夫人 土産話を聴く 鈴木康平氏談

市内一丁目雜貨商美登屋海野辰之助氏の一人息子さん海野野一郎氏は三菱商事ロンドン支店勤務として長らくロンドンに住んでゐるが、ロンドンに於て夫人あいつさんを始め長男哲夫君、長女淑子さん、次男敏之さん、孫は二日横濱入港の郵船箱根丸で歸朝した。夫人あいつさん、湯本町旅館山形屋主人鈴木康平の令妹で鈴木氏は徳々横濱早頭に出現へ三日歸宅したが以下鈴木氏があいつさんから聞いて来た話である。

「ドイツとポーランドの開戦が始まるとロンドンに逃げ、九月三日空襲に罹りました。九月三日日空機が布告されましたが、機が空襲に備へて空一面に煙霧が揚り、その夜は眞暗な中に氣味悪いサイレンが鳴り響いて市民の恐怖が凄まじりました。婦人子供には避難命令が出たので間もなく私は子供等とトートキー海岸に避難しました。毎晩のやうに空襲のサイレンが鳴りましたが一度も空襲はありませんでした。それでも子供達が落ちつかず勉強が出来ないで連れて歸つて来た次第です。東京に数日滞在して郷里に歸ります。」

築港人夫の勞銀 値上げを縣會に陳情

四倉築港工事は既報の如く附近男一四二、三十錢、女は八町村に呼びかけ人夫労働力工十錢内外の安値なので漁業方面に事進捗に努めてゐるが、勞銀がこれのみ走り希望者が少ないので

珠算競技 平商校主催

平商業學校主催、郡市小學校児童青年學校生徒の珠算競技會は七日午前九時から同校で舉行する。

篠山校長出席 四校長出席

縣下四市小學校校長會は四日、五日兩日若松市公會堂に開かれるが、平市から篠山第一、千葉第二、赤津第三、菅波第四各校長出席した。

棋仙の集會 入賞者

棋仙集會は三日湯本町山形屋旅館に開いたが、入賞者左の如くである。

／額賞(次平) 2 藤文雄(湯本) 3 濱崎善三郎(警炭) 4 佐川芳松(警炭) 5 佐藤庄太郎(平) 五人抜 佐川芳松(警炭)

六十五圓遺失 植田酒商申合

平市古銀治町遠藤酒版所主人は六十五圓在中の財布を遺失した。平商一年生岩瀬金良、四年生松本三郎兩君が新聞配送中に発見するに届けた。

植田酒類組合では酒及びビール樽、樽等容器の不足と醸造流に追はれて左の如き協定をなした。

校外遠足會

平商業學校第一校では十四日左の如く校外遠足を發行する。

△二年 好間村安宗神社
△三年 飯野村龍門寺
△四年 岡村佐藤久翁神社
△五年 湯本町入山炭礦
△六年 白水阿彌陀堂
△高一、高二 高野鏡泉

電話 38 284
適正價格... 秋冬荷揃へ
常に商品豊富
御用命は.....
平市 三井吳服店へ

天 氣 豫 報
今晩(北)ノ風
明日(北)ノ風時レ一時曇リ

平市で人の壽命がわかる... 藤田庄太郎氏は言ふ。強い間は死なないものだ。死の前には弱くなる。

聞いてゐた小林誠次氏「全くです。遠藤平兵衛さんは私も死の半歳位前には私より三子位弱くなつたよ。」

大浦村では慰問用品用紙の代用に竹筒で作つた。煙草、水砂糖何れも入る。筒すれば通ずるものだ。

精動通信 國家非常時に處した 面白い日本禁酒史

毎月一日の興亞奉公日を有力な實踐日の機會として全國的に禁酒運動が展開されつゝあるが日本近世史を閉いて見ると、單なる民衆運動ではなく國家非常時に當り徳川幕府が強力によつて禁酒令を斷行した面白い事實が左の如く文獻に残つて居り、國家の非常時の禁酒問題が如何に大きな關心事であつたかを物語つてゐる。

△徳川時代には食糧米確保のため大旱、洪水、凶作等の場合しばしば酒造制限令を發して其の回数は寛永年間より享保まで約百年間だけで三十回に及んでゐる。

△寛文十年九月酒造を四分の一に減じたが、翌十一年二月には「前年の二分の一造」を令した、即ち造石高を平年度の八分の一としたわけである。

△元祿十年酒造統制を行ひ「酒運上」と稱し酒價段の五割を賦課した。又元祿十二年九月には酒造高を十年の五分の一とする大減石令を發し、寶永五年まで一年間殆んど同一制限を連續斷行した。

△天保二年酒造家に對し造米と稱し既に準備したる酒米を飯米とすべく吐出せたる令分中には「元來酒造の幾は造石少なくとも差し支へこれ無き事に候ところ人命に拘はり候米穀を潰し候段、畢竟無益の儀につき云々」といふ面白い一節がある。

△徳武天皇の天平九年五月に勅して宜はく「疫早並び行はる宜しく國部に令して禁酒せしめよ」(綾日本紀) また天皇「不飲酒戒」を親愛し給ひ詔して「如何に文學に通達あるも不飲酒

金融 簡易 啓
無盡 趣味貯蓄
出張所 縣内各町

金屋商店
電話九・九九番

文魁文堂
電話三・一三番

文部省習字科檢定委員
國定書方手本筆者
鈴木翠軒先生御選定
愛國筆
清樂筆
一本金拾錢より金五圓迄

折譜法
お惣菜さつま揚・吉原揚
平市一丁目
電話一四一番

野内商會
電話一一番
發賣元 野内商會
燒土管 在庫豊富

水野化粧院
電話(六七八)營業所
電話(五二五)自宅
御婚禮御着附
パールマントウエーブ
御婚禮用髪を御利用下さい
和洋結髪
オゾン美顔術
御染髮洗毛
御爪術
平市驛前

附屬産院 新設
妊産婦入院隨時
産科 木村病院
平市新川町
電話一六四番

安田生命 保
日本共立火災 東京動産火災 險
平代理店 井上貞治郎
平市五丁目 電話六六番

ごんかつ 専門の店
御ひいきをお願致します
平市仲田町
かの家
電話四六五番

冷凍魚
鯛 鮭 金頭 帆立貝
エビ イカ 貝焼 其他
日本水産特約(電話三三三六)
卸賣平製氷會社
平市驛前 電話五三三番

吉田眼科
平市紺屋町(電話六八番)

山科
天婦羅 一泊 市三
電話四〇〇番

帝都演藝豪華名流家來
浪曲界の藝家 廣澤 虎藏 小唄漫遊
講談會の名人 神田 伯龍
天才少女浪曲横綱 鈴木照子嬢
ブルースのクイン 歌謡曲の名花
丸山和歌子
帝都漫遊界の人氣王
朝日日出丸
日時 昭和十四年十二月十九日
正午より 午後五時より
主催 磐城通信社
後援 平市役所

開業
内臓外科 整形外科
平市大町二番地
内木外科醫院
醫學博士 内木宗八
入院隨時